

令和7年度第1回鎌ヶ谷市廃棄物減量等推進審議会 会議録

開催日時	令和7年7月31日（木） 午後2時から午後3時まで
開催場所	鎌ヶ谷市本庁舎6階 第2委員会室
委員出席者	和田光誉、伊藤勝、高野武、野村利文、皆川洋子、矢崎博一、尾崎弘憲、 本山宗治、佐藤宗之（以上敬称略）
事務局出席者	高野章（クリーン推進課課長）、神道立丈（クリーン推進課計画管理係長）、 萩原伸一（クリーン推進課業務係長）、高橋賢（クリーン推進課計画管理係）、 増山健司（クリーン推進課業務係）
傍聴者	1名

＜ 審 議 内 容 等 ＞

1 会議の成立について

鎌ヶ谷市廃棄物減量等推進審議会の委員定数10名に対し、出席委員9名であり、会議は成立した。

2 会議録の署名人の選出について

市内在住委員の名簿登載順で、出席委員の中から、会議録署名人は高野委員、野村委員に決定した。

————— 今回の会議は傍聴者1名 —————

3 （1）議題 ア 会長及び副会長の選出

会長は互選により伊藤委員に決定し、副会長は互選により高野委員に決定した。

4 （2）報告事項 ア 鎌ヶ谷市の一般廃棄物・リサイクルの現状について

事務局説明：配付資料「鎌ヶ谷市の廃棄物・リサイクルの現状について」に基づき概要を説明

質疑応答

委員

今話題となっているリチウムイオン電池については、鎌ヶ谷市でどのような処理方法となっていますか。

事務局

昨年度末に印西クリーンセンターで、リチウムイオン電池が原因となり、大規模な火災が起きました。クリーンセンターは未だに復旧できておりません。老朽化している建物であり、ちょうど新施設建設の計画があったため、修繕するよりも建替える方が安く済むことから、建替えの時期を待っている状況です。また、リチウムイオン電池

の処理については外部委託をしていると聞いております。仮に修繕した場合、40億円ほどかかると聞いております。また、川口市でもリチウムイオン電池を原因とした大規模な火災があり、約1か月程度日常の収集が止まっている状況ですので、鎌ヶ谷市としても他人事ではないという認識をしております。そこで、鎌ヶ谷市としてもリチウムイオン電池や危険物を入れる専用の袋の導入を対策として考えているところです。導入の時期としましては早ければ令和8年、遅くとも令和9年度からの導入を考えております。専用の袋を作ることによって他のゴミと混在しない形で、それを専門に処理する業者に処理を依頼することが可能となり、クリーンセンターの火災が防げると考えております。ただし、鎌ヶ谷市は現在約11万人の人口がいる中で、全ての人が専用の袋を使用してもらうことができればいいですが、一般ゴミに入れてしまう人もいることが考えられます。そのため、今後は市独自で啓発活動を行っていくことも考えています。

委員

リチウムイオン電池や危険物を入れる専用の袋を導入する時期が遅いのではないですか。火災事故防止のため、すぐにでも導入した方がよろしいのではないですか。

事務局

クリーン推進課としては、すぐにでも導入したいところです。袋を作成して販売するという方法もありますが、利用者が買わないと意味がなくなってしまうこともありますので、専用袋については市が予算を確保し、住民に対して配布する方法考えています。その場合、財政部門との調整が必要となるため、時間を要するところですが、クリーン推進課としては少しでも早く専用の袋を導入したいと考えています。

委員

全国で専用の袋を導入している事例はありますか。

事務局

近隣市では松戸市が令和5年度から導入しております。鎌ヶ谷市の財政を考えますと、専用の袋を販売するのが理想ですが、購入してもらえないと意味がなくなってしまうため、行政が負担する形で財政部門と調整をしております。リチウムイオン電池の火災はクリーンセンターの焼却設備を全て使えない状態にまでしてしまう可能性があります。ゴミ収集車においても、火災が発生した場合、収集車自体が

2,500万円程度と高額であり、損失となってしまいます。これらのことは、どの市町村においても起こり得ることです。最近では環境省も社会の動向を注視しており、加熱式たばこ機器、携帯電話、モバイルバッテリーの3品目については専用で回収するような動きが8月に出てくる予定となっています。国の動向も見据えつつ、専用の袋の導入を考えております。

委員

よろしくお願ひします。

5 (2) 報告事項 イ 民間事業者と連携した3R推進の取り組みについて

事務局説明：配付資料「民間事業者と連携した3R推進の取り組みについて」に基づき説明

意見等なし

6 その他

その他意見等なし

会議録署名人署名

以上、会議の経過を記載し、相違ないことを証明するため、次に署名する。

令和7年8月8日

氏名 高野 武

氏名 野村 利文